



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

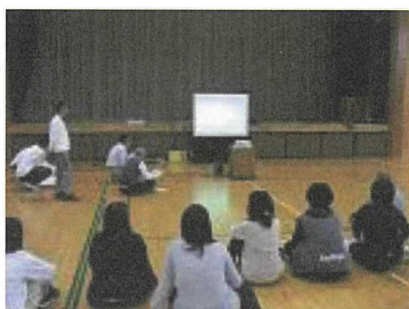
- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【群馬県】

1 実践テーマ	【I III V】
2 実施対象者	桐生市立広沢中学校 全校生徒（男子154名 女子 144名 計 298名） 第1学年（男子 39名 女子 45名 計 84名） 第2学年（男子 63名 女子 50名 計 113名） 第3学年（男子 52名 女子 49名 計 101名） 教職員（男性 16名 女性 8名 計 24名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（美術・保健体育・道徳・総合的な学習の時間） ② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育推進事業 講演会・東京校外学習【第2学年】） ③ その他（校内研修【教職員】）
4 目標 (ねらい)	本校生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味関心を向上させ、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等を深める。
5 取組内容	1 広沢中学校 オリンピック・パラリンピック教育推進委員会の組織 ○運営委員（校長、教頭、教務主任、各学年主任）が中心となり、オリンピック・パラリンピック教育の推進にあたる。（単年度の取組） ○校長及び教頭は、「群馬県教育委員会健康体育課」や「東部教育事務所」、「桐生市教育委員会保健体育係」「県立あさひ特別支援学校」と連携し、取組の方向性についてとりまとめる。 ○運営委員は、取組の方向性について協議し、研修主任・体育担当教員・美術担当教員・人権教育主任・学級担任（総合・道徳）らと連携し、取組を具体化する。 2 オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る取組 【1学期】 ※ 事業の概要把握と取組内容の検討 ① 群馬県教育委員会健康体育課からの説明・・・校長、教頭 ② 桐生市教育委員会保健体育係との連携・・・校長、教頭 ③ オリンピック・パラリンピック教育推進委員会への出席（6月）・・・校長 ④ 取組内容の具体化（原案作成）・・・校長、教頭 ※ 第1回「広沢中学校 オリンピック・パラリンピック教育推進委員会」で提案

	<p>【2学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 取組内容の具体化 ① 校内研修での共通理解・・・校長、教頭 ※ 9月10日（月）校内研修で確認 ② オリンピック・パラリンピックの理解に向けての授業実践・・・学級担任 ※ 道徳あるいは総合的な学習の時間等で実践 ※ 国際パラリンピック委員会公認教材 <i>I'm POSSIBLE</i> を活用 指導案、DVD、ピックチャード、ワークシート等準備済み（校長室保管） ※ 9月・10月にかけて各学級で実施（指導者は、実施予定日を教頭まで報告） ③ ボッチャに係る職員研修（体験）・・・校長、教頭、校内研修主任 ※ 10月15日（月） 6校時（木6）カット 15：30～実施 体育館 ※ 県立あさひ特別支援学校に講師依頼（内諾済み 校長が対応） ④ ボッチャに係る授業実践・・・校長、教頭、研修主任、体育担当教員 ※ 体育の授業で11月・12月にかけて実施 ⑤ オリンピック・パラリンピック教育推進事業記念講演会（人権講演会）の実施 ・・・校長、教頭、人権教育担当教員 ※ 11月22日（木） 5・6校時 14：00～15：50 ※ 広沢地区全校少年表彰終了後 14：20頃から開始 ※ 講師 一般社団法人 日本車椅子バスケットボール連盟 強化指導部運営委員 塚本 京子 先生 ※ 講師依頼済み（校長が対応） ⑥ 東京2020 オリンピック・パラリンピック ポスター作成 ・・・美術担当教員 ※ 美術 夏休みの課題等で対応済み
<p>6 主な成果</p> <p>7 実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの理解に向けての授業実践・・・学級担任</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・国際パラリンピック委員会公認教材 <i>I'm POSSIBLE</i> を活用した授業をとおして、生徒はパラリンピックの意義や価値、実際の競技の様子について関心を持ち、パラリンピックについて理解を深めている様子であった。</p> <p>【事後指導における生徒の感想文から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 脚や口を使って卓球をしていたことに衝撃を受けた。 ○ みんな楽しそうにやっていて、たくさん喜んでた。 ○ 目が見えないのにサッカーが上手ですごかった。 ○ 自分たちよりも努力していると思った。いっぱい練習していたことが伝わってきた。 ○ ブラインドサッカーを体験して、難しさを実際に知りたかったです。 ○ 障害者への差別が無くなり、車椅子の人が通りやすい道ができるといい。 ○ 障害をもっている人も一般の人とも関係なく、みんな同じ生活をしていけたらいいと思った。

(2) ボッチャに係る職員研修(体験)・・・校長、教頭、校内研修主任



- 県立あさひ特別支援学校から講師を招き、教職員がボッチャについて理解を深め、実際に競技を体験したことで、ひとりひとりの教職員がパラリンピック競技への理解を深めることができた。また、指導方法を学ぶことで、学級担任は総合的な学習の時間の取組、保健体育担当教員は体育の授業の中で生徒に指導をすることが可能になった。

(3) ボッチャに係る授業実践・・・学級担任、体育担当教員



- 総合的な学習の時間、体育の時間にすべての生徒が繰り返しボッチャについて学び、競技を行うことができた。ボッチャの持つ意外性や楽しさを体験し、生徒は楽しみながら仲間とコミュニケーションを図り、ボッチャの競技に係る興味関心を高めている様子であった。また、指導者である教員も実際に指導することで、ボッチャの指導に係る自信を高めている様子であった。

(4) オリンピック・パラリンピック教育推進事業記念講演会(人権講演会)の実施
・・・校長、教頭、人権教育担当教員



- 講師として、一般社団法人 日本車椅子バスケットボール連盟 強化指導部 運営委員 塚本 京子 先生 をお招きし、講演会を実施した。塚本先生は、数々のパラリンピックに選手として参加し、1984年イギリス・アイスバリーパラリンピックでは銅メダルを獲得した実績のあるパラリンピアンである。太田市内に在住であり、これまでもさまざまな学校で講演を行った実績がある。当日は、車椅子バスケットボールの実際の競技の様子を、映像を題材に説明いただいた後、講話していただいた。その後、車椅子バスケット

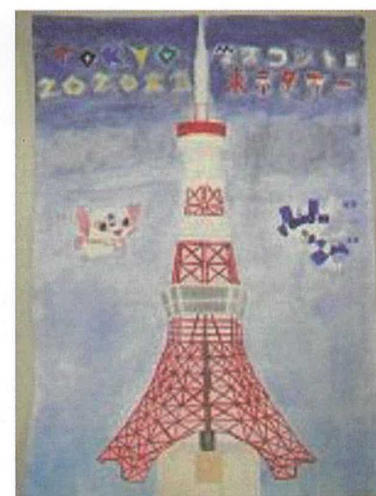
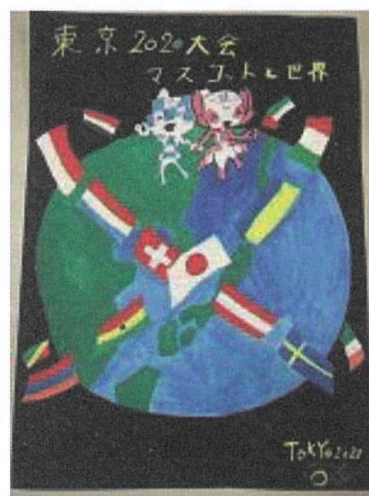
ボールを実演いただき、当日用意した競技用の車椅子を用いて生徒が実際に競技を体験することができた。目標をもって努力し続けている塚本先生を目の当たりにし、その生き方を直接うかがうことで、生徒はさまざまなことを感じ、これからの生活にいかしていきたいと考えている様子であった。

【事後指導における生徒の感想文から】

- 塚本先生の話聞いて、パラリンピックの素晴らしさや、脚などが不自由な人の大変さを学ぶことができました。パラリンピックの映像を見たとき、とてもスピードがあり、かっこいいと感じました。僕は、今日から人の役に立てるようなことを考えて、実行できる人になりたいと思いました。
- 障害を持って、夢を追い続けた塚本先生はすごいと思います。事故にあっても歩けなくなっても、車椅子バスケットボールを続け、パラリンピックで銅メダルを獲得できたのは、あきらめずに努力してきたからだと感じました。普通のことをするのも大変なのに、パラリンピックに出るなど普通の人よりも何倍も努力してきたことをとても尊敬しました。
- 塚本先生の気持ちの強さに感動しました。脚が不自由になってしまったら、僕は、何もしなくなると思います。ですが、塚本先生は、車椅子バスケットボールに挑戦し、しかも日本代表にもなったので、すごいと思いました。講演を受けて、夢を追い続けることの大切さ、スポーツは世界中の人が楽しめるものであることを改めて感じました。

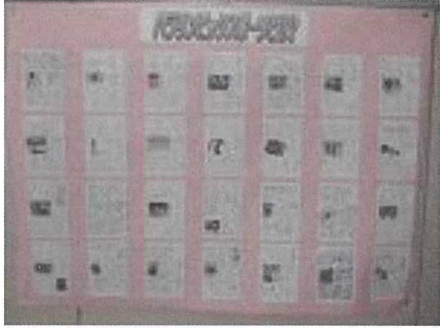

(5) 東京2020 オリンピック・パラリンピック ポスター作成

・・・美術担当教員



- ・オリンピック・パラリンピックに係る理解、興味関心を高める上で、美術科でポスター作成の授業を実施した。こうした活動は、総合的な学習の時間の様々な取組や、第2学年の校外学習（臨海副都心 お台場）「パナソニックセンター東京」でのオリンピック・パラリンピックに向けた体験展示やイベントでの学習等に結びついている。

※このように、本校の全職員がそれぞれの学年や教科、学校行事等の中でオリンピック・パラリンピックに係る取組を具体化し、組織的に取り組むことにより、生徒は、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を向上させ、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等を深めている様子であった。

	 
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度実施した様々な取組について、来年度以降の教育課程に位置づけ、年間指導計画の中に実施時期等も含め具体化していくことが大切である。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピックの理解に向けての授業実践やボッチャの指導について来年度以降も引き続き実践を続けていく。その際、県立あさひ特別支援学校との連携を深め、交流活動等を一層充実させていきたい。